

学生がリノベ提案

静岡文化芸術大

静岡文化芸術大（浜松市中区）の学生グループ「BASE（ベース）」が市内の民間企業と連携し、学生向け賃貸マンション・アパート情報の発信や賃貸物件のリノベーションに乗り出した。学生目線を生かしたビジネス化の模索が始まった。



壁紙などのサンプルを広げ、意見を交わす静岡文化芸術大の成瀬史一さん（中央）＝浜松市中区紺屋町

ビジネス化を模索

市内企業と連携 賃貸情報も発信

ベースは浜松に住む学生による学生のための情報発信を目指し、2014年12月に発足した。現在のメンバーは同大2～4年の男女約20人。代表でデザイン学部の成瀬史一さん（21）愛知県出身は「学生向けの浜松情報は少なく、自宅生も意外と地元を知らない。そこを埋めたかった」と説明する。

企業との連携も「浜松を知ろう」との思いが出発点。プロパンガス販売などの「エネジ（浜松市中区）の呼び掛けで昨年発足した地域活性化の「はままつ応援隊」関係者との意見交換を開始。家賃や通学利便性を重視した空室情報、学生が利用しやすい飲食店案内をインターネットで続けている。3月上旬には、同大の入試会場近くで賃貸情報のチラシを配布した。

新たな試みは賃貸物件のリノベーション。応援隊に加盟する不動産業者から大家の紹介を受け、学生が住みたいと感じられる壁紙や床材、照明器具への交換、脱衣所の確保など小規模な改築提案の調整に入った。成瀬さんは「デザインの勉強や職につながる活動。地域にも貢献できよう」と意欲的だ。

同市中区の賃貸マンションオーナーで、管理建築士の藤田英一郎さん（50）はリーマン・ショック後に空室率が上昇した地域の現状を指摘する。その上で、ベースとの連携について「学生、若い世代のニーズを把握する近積極的に出してほしい」と考える。

応援隊に携わるエネジン営業企画部の石川克昭さん（38）は「学生の提案が学生の収益に結び付くようなビジネスモデルができれば理想的。地域に愛着を持つてもらおうきっかけにもなる」と話す。